

政策評価書（要旨） （事後の事業評価）

| | | | |
|------|------------------|------|----------------|
| 事業名 | 潜水艦用新型主蓄電池の研究 | 担当部局 | 経理装備局技術計画官 |
| 政策体系 | I-4-(2)-② 研究（開発） | 実施時期 | 平成18年10月～19年3月 |

| | | | | | | | |
|----------|--|------|----|----|----|-------|------|
| 事業の内容 | <p>次期潜水艦における主蓄電池^(注)として、現用の鉛蓄電池^(注)に替わる高性能主蓄電池について研究し、必要な技術資料を得た。</p> <p>(注)：解説は本文参照</p> | 実施結果 | | | | | |
| | | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 完了年度 |
| ← 研究試作 → | | | | | | 17年度 | |
| ← 試験 → | | | | | | 研究経費 | |
| | | | | | | 約46億円 | |

評価の内容

| | | | |
|--------|--|---------|--|
| 事業の目的 | <p>重量・容積が大きく、取り扱いが煩雑で、スノーケル充電時間^(注)が長い鉛蓄電池に替わって、高エネルギー密度^(注)のリチウムイオン二次電池^(注)を、潜水艦用新型高性能主蓄電池として研究し、その実現性・有効性を実証することを目的とした。</p> <p>(注)：解説は本文参照</p> | 達成状況 | <p>① 達成効果</p> <p>目標とした性能を達成したことで、大型かつ大容量のリチウムイオン二次電池を潜水艦用主蓄電池にするための技術基盤が確立された。また、潜水艦の被探知防止能力及び運動性能の向上、水中持続力の延伸、攻撃回避能力の向上並びに保守整備性の向上に寄与できる潜水艦用主蓄電池の性能、安全性及び寿命に関する技術資料が得られた。</p> |
| ② 達成時期 | <p>平成14年度から研究試作に着手し、平成17年度までに所内試験を終了した。</p> | ③ 教訓等事項 | <p>本研究は、実装備化を念頭に、民間で活用の進むリチウムイオン二次電池の大容量化を図ったもので、短期間に新たな技術基盤を育成することができた。</p> |

今後の対応

| | |
|---|----------|
| <p>本研究では、実装備化を念頭にした機能・性能確認まで実施しており、本研究成果を20年度建造潜水艦に搭載することを計画中である。</p> | その他の参考情報 |
|---|----------|